いわば変異の多い形質できめてとなり難い場合が多いが Stylets 上における著明な棘の存否はいわば質の問題で一般的にいつて種類を分けるに十分役立つ標徴であるように思われる。従来 *S. clathrata* の雄の Genitalia については Böttcher ('12), Aldrich ('16), Patton ('35), Rohdendorf ('37), Séguéy ('41) 等の記載があるが, Stylets 上の棘に着目したのは前記 Rohdendorf の研究があるのみである。又因みに Patton によれば英国産の *S. clathrata* の翅脈 r_1 の基部には 1 乃至 2 刺毛を装うといい, Séguéy は r_1 は裸出するか又は少数の刺毛を有すると述べており, この点については個体による変異があるらしく一定してないが, 筆者の標本では r_1 には刺毛を欠いている。これを要するに筆者は, 筆者の標本はいまのところ, *Thyrsoecema obsoufjevi* の記載に最もよく一致する と考えるが, 本種の属名は Rohdendorf の様に細分主義をとらず, *Sarcophaga* を使用し, また本種に対しここにタカネニクバエなる和名を提唱する。(金沢大・理)

新潟縣のハエについて

大鶴正満 齊藤 豊 須川 豊

Otsuru, M., Saito, Y. & Sugawa Y. :

On the flies of medical importance

in Niigata Prefecture, 1955

1955 年 5 月より 12 月迄の間衛生害虫としてのハエ調査に当り, 新潟県衛生部及び各保健所の協力を得て, 誘引材は魚内臓に依つたケージトラップ及びリボンを使用し, 若干は捕虫網に依りて採集され得たハエ観察の結果は次の如くであつた。ケージトラップ及び之に若干捕虫網に依る採集数を合せた総数は概略 2 万頭で 11 科 33 属 60 種, リボンに依る 総捕獲数は 1 万 2 千頭で 8 科 14 属 25 種に分類され, 総計の 3 万頭は 11 科 33 属 61 種に達した。新潟県を地方別に見た場合, 日本海岸に接近した地方ではペキンニクバエ, 新津市ではヒツジキンバエ及び三条市ではキンバエが比較的多く, 小出町, 栃尾市等の山脚地帯は *Ophyra* 属中クロツヤハナバエが普通種たること, 新潟市医学部内ではシリアカニクバエ, 佐渡ではツシマニクバエ, ミヤマキンバエが比較的多数棲息する事を知ると共に, 直江津市からはクロキンバエ 8 5 頭, ルリキンバエ♀ 1 頭を採集し得た。標高約 400~1000 m の中条楢形山及び奥只見銀山平に於ける夏期調査では何れもホボグロオビキンバエが優越しヒロズキンバエは平地に反し比較的少くかえつてキンバエが多い結果であつた。尙銀山平の標高 800~1000 m 附近でメマトイとしてマダラシヨウジョウバエ及び *Stegana* sp.

を見出し得たこと, 及び小川, 下水の近辺にて *Lispa* sp. を採集し得たことは興味深く考えられると共に, 昨年報告した晩秋~初冬活動性のトゲハネバエが今回は屋内のリボンからも発見され, 又別な生態的観察に於て衛生害虫たる事を認め, 更に *Ophyra* 属に於ては比較的多数のものを夫々採集し得, 之に 3 種の存在する事を確認し得た。(新潟大・医動物, 新潟大・細菌, 新潟県・衛生部)

京都地方の恙虫の研究 (第 5 報)

佐藤 淳 夫

Sato, A. : On the tsutsugamushi-mites
in Kyoto Prefecture (Report V)

昭和 30 年 3 月より 31 年 2 月までの間京都市周辺山地に於て採集した成績を報告する。

(1) 採集地は上賀茂, 銀閣寺, 御室の 3 カ所を選び毎月大体同一地域内に於て捕虜を行つた。採集した宿主はアカネズミ 82 頭, ヒメネズミ 4 頭, ヒミズモグラ 22 頭計 128 頭である。採集した恙虫幼虫は *Trombicula fuji*, *T. kitasatoi*, *T. tanaka-ryoi*, *T. pallida*, *T. intermedia*, *T. kansai*, *T. nagayoi*, *T. japonica*, *Gahrlepiea* sp. の 2 属, 9 種計 6113 匹である。之等の恙虫幼虫の 3 採集地に於ける採集状況には特殊な差違は認められなかつた。最も多数に採集されたのは *T. fuji* で全数の 90 % 以上を占めて居り次で *kitasatoi*, *tanaka-ryoi*, *kansai*, *Gahrlepiea* sp. が採集されているが, その数は割合に僅少である。他の種類は時折数匹採集されるにすぎなかつた。(2) 恙虫幼虫の採集数を月別にみると, 7, 3 月はほとんど附着して居らず 9 月より次第に増加して 11~4 月の間に多数に採集されてその種類も多い。最も採集の多かつたのは 11 月で全採集数の約 30 % を占めている。

(3) 最も多数捕えられたアカネズミに寄生する恙虫は *fuji* (3363 匹), *kitasatoi* (209), *tanaka-ryoi* (14), *nagayoi* (1), *pallida* (4), *kansai* (10), *intermedia* (7), *japonica* (2), *Gahrlepiea* sp. (36) の 2 属 9 種である。之等の幼虫を附着部別にみると耳内側に約 85 % 以上が見出された。その他の部位に附着するものは少い。最も数の多い *fuji* では耳内側にあるものが圧倒的に多く 90 % を占め, *kitasatoi* では耳内側以外の場所に 70 % が附着して居り, その他の種類では 80 % 以上が耳内側以外の場所に附着していた。(京府医大・医動物)